

鹿児島大学埋蔵文化財調査センター一年報 38

令和4(2022)年度事業報告

鹿児島大学埋蔵文化財調査センター

令和6(2024)年3月

序 文

鹿児島大学キャンパスには、後期旧石器時代から近代までの、貴重な遺跡が包蔵されています。鹿児島大学埋蔵文化財調査センターは学内の施設整備事業に伴い、継続的な調査を実施し、その成果はこれまでに『鹿児島大学埋蔵文化財調査センター年報』や『鹿児島大学埋蔵文化財調査室調査報告書』によって報告されてきました。

本書は、令和4年度の事業報告となっています。令和4年度は、発掘調査2件、立会調査3件が実施されており、加えて年報37号と郡元キャンパス（鹿大構内遺跡）で実施された2件の発掘調査の成果が調査報告書第19集として刊行されました。

令和4年度の事業のひとつとして、入来牧場（薩摩川内市）の発掘調査があります。入来牧場は、これまで縄文時代の遺物が複数採集されていましたが、今回初めて、発掘調査のメスが入ることになりました。発掘調査地点は牛舎建設予定地で、この地点では縄文時代の包含層は残っていないことが判明しましたが、調査地点周辺の土層の詳細な観察や踏査によって黒曜石の原石の散布を確認することができました。今後も埋蔵文化財への慎重な対応が必要です。

このように当センターでは、文化財保護法に基づいた学内の施設整備事業に伴う埋蔵文化財調査を円滑に進めつつ、調査報告を刊行することによって記録保存を達成するとともに、調査成果を社会に還元できるよう全力を尽くす所存です。重ねて、埋蔵文化財調査センター事業についてのご理解・ご支援をお願い申し上げます。

令和6(2024)年3月

鹿児島大学埋蔵文化財調査センター長

中村 直子

例言

- 1 本書は令和4年度（2022年度）に鹿児島大学埋蔵文化財調査センターが実施した事業報告である。
- 2 調査時における図面・写真撮影については、寒川と中村が担当した。
- 3 本書の作成にあたっては、埋蔵文化財調査センターが行なった。担当者は以下の通りである。
執筆 寒川
編集 寒川・中村
- 4 本書で報告している遺物は、埋蔵文化財調査センター管理のもと、学内の出土部局収蔵施設に収蔵している。また、図面・写真などの資料は埋蔵文化財調査センターで保管している。

凡 例

- 1 1985年6月1日の埋蔵文化財調査室（現在の埋蔵文化財調査センター）の設置を機として、鹿児島大学構内におけるこれからの埋蔵文化財調査室に便であるように、鹿児島大学構内座標を郡元団地と桜ヶ丘団地に設定した。その設置基準は以下のとおりである。
 - (1) 郡元団地では、国土座標第2座標系(X=-158,200, Y=-42,400)を基点として一辺50mの方形地区割りを行なった(Fig. 3参照)。
 - (2) 桜ヶ丘団地では、国土座標第2座標系(X=-161,600, Y=-44,400)を基点として一辺50mの方形地区割りを行なった(Fig. 4参照)。
 - (3) 設置当初の国土座標は、日本測地系による。本書Fig. 3・Fig. 4の基本座標は日本測地系となっているが、最近の調査における測量は世界測地系によるものとなっているため、郡元団地A-2区南西角(Fig. 3内a)とQ-13区南東角(Fig. 3内b)および桜ヶ丘団地A-1区北東角(Fig. 4内a)とQ-12区南西角(Fig. 4内b)を起点として世界測地系の座標も挿入した。
- 2 本書における方位は真北方向を示す。
- 3 土層の色調は『新版標準土色帖』（農林水産技術会議事務局監修）を使用した。
- 4 遺物・土層の色調については『新版標準土色帖』（農林水産技術会議事務局監修）を使用し、この色調に当てはまらないものについては、「～に類似」と表記した。

抄録

ふりがな	かごしまだいがくまいぞうぶんかざいちょうさせんたーねんぼうさんじゅうはち							
シリーズ名								
書名	鹿児島大学埋蔵文化財調査センター年報 38							
編著者	寒川朋枝・中村直子							
編集機関	鹿児島大学埋蔵文化財調査センター							
所在地	〒890-8580 鹿児島市郡元一丁目21番24号 Tel. 099-285-7270 Fax. 099-285-7271							
発行年月日	令和6(2024)年3月							
所収遺跡	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査起因
		市町村	遺跡番号					
鹿大構内遺跡 (郡元団地)	鹿児島市郡元一丁目 20番15号	4620	1-23-0	31.572348°	130.54575°	2022年5月16日, 9月20日, 2023年2月21日	100	施設整備事業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項	
鹿大構内遺跡 (郡元団地)	散布地 集落跡	近代～中世 古代 古墳～弥生 時代						

目次

鹿児島大学埋蔵文化財調査委員会規則	1
鹿児島大学埋蔵文化財調査センター規則	2
第1章 令和4（2022）年度の事業概要	4
第2章 令和4（2022）年度 立会調査	9
第3章 その他事業	12
1 土器圧痕調査	12
2 フローテーション	12
3 その他事業	12
4 土器圧痕調査	12
5 立会調査	12
6 その他事業	12

挿 図 目 次

Fig.1 鹿児島大学構内に所在する遺跡の位置	6	Fig.5 2022-A掘削地点	9
Fig.2 鹿児島市内に所在する鹿児島大学構内の遺跡 (S= 1/100,000)	6	Fig.6 2022-K掘削地点	10
Fig.3 鹿大構内遺跡調査地点 (郡元団地構内図)	7	Fig.7 2022-K B 地点土層模式図	11
Fig.4 脇田亀ヶ原遺跡調査地点 (桜ヶ丘団地構内図)	8		

図 版 目 次

PL. 1 2022-A 立会調査	9	PL. 3 2022-K 立会調査	11
PL. 2 2022-E 立会調査	10	PL. 4 2022年度 その他事業	13

表 目 次

Tab.1 2022年度の事業一覧(1)	4
Tab.2 2022年度の事業一覧(2)	5

鹿児島大学埋蔵文化財調査委員会規則

平成 16 年 4 月 1 日

規則第 32 号

(趣旨)

第 1 条 この規則は、鹿児島大学埋蔵文化財調査センター規則(平成 16 年規則第 103 号)第 8 条の規定に基づき、鹿児島大学埋蔵文化財調査委員会(以下「委員会」という。)に関し、必要な事項を定める。

(組織)

第 2 条 委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 鹿児島大学埋蔵文化財調査センター長(以下「センター長」という。)
- (2) 各学部、大学院理工学研究科及び大学院医歯学総合研究科の教授、准教授又は講師のうちから選出された者各 1 名

2 前項第 2 号の委員の任期は、2 年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員を生じた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(審議事項)

第 3 条 委員会は、次に掲げる事項について審議する。

- (1) 調査実施計画に関すること。
- (2) 埋蔵文化財調査センターの予算に関すること。
- (3) その他埋蔵文化財の業務に関すること。

(委員長)

第 4 条 委員会に委員長を置き、第 2 条第 1 項第 1 号の委員をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代行する。

(議事)

第 5 条 委員会は、委員の過半数の出席をもって成立し、議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数の場合は、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第 6 条 委員会が必要と認めるときは、委員以外の者を出席させ、意見を聴くことができる。

(事務)

第 7 条 委員会に関する事務は、施設部企画課において処理する。

(雑則)

第 8 条 この規則に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

附 則

この規則は、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規則は、平成 18 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

1 この規則は、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。

2 この規則の施行前に委員となった助教授は、その任期の満了の日まで引き続き委員とする。

附 則

この規則は、平成 19 年 11 月 28 日から施行し、平成 19 年 4 月 1 日から適用する。

附 則

この規則は、平成20年1月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成24年4月1日から施行する。

鹿児島大学埋蔵文化財調査センター規則

規則第103号

(趣旨)

第1条 この規則は、鹿児島大学学則(平成16年規則第86号)第7条第2項の規定に基づき、鹿児島大学埋蔵文化財調査センター(以下「センター」という。)に関し、必要な事項を定める。

(目的)

第2条 センターは、鹿児島大学(以下「本学」という。)の埋蔵文化財の調査に関する業務を行い、本学内に存在する埋蔵文化財の保護対策を講ずることを目的とする。

(業務)

第3条 センターは、次の業務を行う。

- (1) 調査実施計画の立案
- (2) 発掘調査、分布調査及び確認調査
- (3) 調査報告書の作成
- (4) その他必要な事項

(職員)

第4条 センターに、次の職員を置く。

- (1) センター長
- (2) 主任
- (3) その他必要な職員

(センター長)

第5条 センター長は、本学の考古学に関連する教員のうちから国立大学法人鹿児島大学学内共同教育研究施設等人事委員会(以下「委員会」という。)の意見を参考にして、学長が選考する。

- 2 センター長は、センターの業務を掌理する。
- 3 センター長の任期は2年とし、再任を妨げない。
- 4 センター長に欠員を生じた場合の補欠のセンター長の任期は、前任者の残任期間とする。

(主任等)

第6条 主任は、センターの職員の中から、特に埋蔵文化財に関する専門知識を有する者を委員会が推薦し、学長が選考する。

- 2 主任は、センター長の命を受けてセンターの業務を処理する。
- 3 職員は、センターの業務に従事する。

(事務)

第7条 センターに関する事務は、施設部企画課において処理する。

(雑則)

第8条 この規則に定めるもののほか、センターに関し必要な事項は、別に定める。

附 則

- 1 この規則は、平成16年4月1日から施行する。
- 2 この規則の施行後、最初の室長は学長が指名した者をこの規則により選考したものとみなす。

附 則

この規則は、平成22年1月29日から施行する。

附 則

この規則は、平成24年4月1日から施行する。

鹿児島大学埋蔵文化財調査委員会（令和4年4月1日現在）

委員長 中村直子（埋蔵文化財調査センター センター長）

委員 石田智子（法文学部）

坂田桂一（教育学部）

吉田拓真（理工学研究科・理学系）

上谷俊平（理工学研究科・工学系）

田松裕一（医歯学総合研究科）

築瀬 誠（医学部）

嶺崎良人（歯学部）

鶴川 信（農学部）

内藤清惟（共同獣医学部）

進藤 穰（水産学部）

鹿児島大学埋蔵文化財調査センター（令和4年4月1日現在）

センター長 教授 中村直子

教員 特任助教 寒川朋枝

技術補佐員 相良暁子

濱田綾子

吉村ゆう子

第1章 令和4（2022）年度事業の概要

2022年度は、発掘調査2件、立会調査3件を実施した。遺物の整理作業は5件の発掘調査出土遺物について、また、発掘調査報告書1冊と年報を発行した。詳細は以下の通りである（Tab. 1・2）。

Tab. 1 2022年度の事業一覧（1）

事業	調査コード	調査区	起因工事	担当者	期間	備考
発掘調査	2021-2	桜ヶ丘団地	動物実験棟改修工事に伴う発掘調査	寒川	2022/3/9～2022/5/11	鹿大埋文報20集掲載
	2022-1	入来牧場	牛舎建設予定地における試掘調査	中村	2022/4/4～18	鹿大埋文報20集掲載
立会調査	2022-A	郡元団地	附属小学校野外屋根付き活動スペース設置工事	長野（鹿市教委） 中村	2022/5/16	攪乱
	2022-E	郡元団地	産学交流プラザ案内看板設置工事	徳永（鹿市教委） 寒川	2022/9/20	攪乱
	2022-K	郡元団地	法文学部2号館改修その他工事	有川（鹿市教委） 寒川	2023/2/21	包含層確認
土器圧痕調査	1996-1	郡元団地	防火水槽設置に伴う発掘調査出土土器	中村・相良・濱田・ 吉村	2022/7～8	鹿大埋文報19集掲載
	1999-1	郡元団地	文系総合研究棟発掘調査	新里・相良・濱田・ 吉村	2022/7～8	
フローテーション調査	1999-1	郡元団地	文系総合研究棟における発掘調査採取土壌サンプル	中村・相良・濱田・ 吉村・寒川	2022/8～10	
	2007-2	郡元団地	共通教育棟発掘調査採取土壌サンプル	中村・相良・濱田・ 吉村・寒川	2023/2～3	
遺物整理作業	1976-1	郡元団地	理学部2号館建設に伴う発掘調査（実測）	中村	2022/5～7	
	1999-1	郡元団地	文系総合研究棟における発掘調査出土土器（注記）	中村・寒川	2022/5～10	
	2013--1	郡元団地	産業動物実験棟建設に伴う発掘調査（実測・トレース）	寒川	2022/4～2023/3	
	2021-1	郡元団地	樹木移植工事における発掘調査	寒川	2022/6	
	2021年度立会	郡元団地	2021年度立会調査（実測・トレース・写真撮影）	寒川	2022/7	
事業	事業内容		担当者	期間	備考	
刊行物作成	鹿児島大学埋蔵文化財調査センター年報37		中村・寒川	2023/3発行	2022年度の事業報告	
	鹿児島大学埋蔵文化財調査センター調査報告書 第19集『鹿大構内遺跡（郡元団地K-5区/L-10区）』		中村・寒川	2023/3発行	1996-1、2021-1の報告	

鹿市教委：鹿児島市教育委員会文化課
鹿大埋文：鹿児島大学埋蔵文化財調査センター

Tab.2 2022年度の事業一覧(2)

事業	事業内容	担当者	期間	備考
	遺物収蔵場所・展示場所確認作業 14か所	中村・寒川・相良・ 濱田・吉村	2022/5～12(随時)	
遺物保管 作業	金属製品防湿等メンテナンス・保存処理	中村・寒川・相良・ 濱田・吉村	2022/5	
	木製品水替え	中村・寒川・相良・ 濱田・吉村	2022/10	
調査支援	さつま町上原遺跡地中レーダー探査(さつま町教育委員会より依頼)	中村	2022/12/14	
調査支援	知覧平和特攻記念館航空機測量調査に参加(南九州市教育委員会・鹿児島大学法文学部考古学ゼミ・大福コンサルタント)	中村・寒川・相良・ 濱田・吉村	2023/1/12, 2/28	
資料活 用・公開・ 地域貢献	実習協力 計測)	法文学部考古学実習に協力(3Dスキャナを用いた遺物 計測)	中村・寒川・相良・ 濱田・吉村	2022/7/11
	資料公開	出土遺跡3Dモデルのオンライン公開	中村・寒川・相良・ 濱田・吉村	2023/3
	資料公開	埋蔵文化財調査センターのHP更新	中村・寒川	随時
	資料貸出	国立歴史民俗博物館常設展示への古墳時代土器7点の貸出	中村・寒川	2022/4/1～2023/3/31



Fig.1 鹿児島大学構内に所在する遺跡の位置



Fig.2 鹿児島市内に所在する鹿児島大学構内の遺跡 (S= 1/100,000)

国土地理院発行の5万分の1地形図(鹿児島)

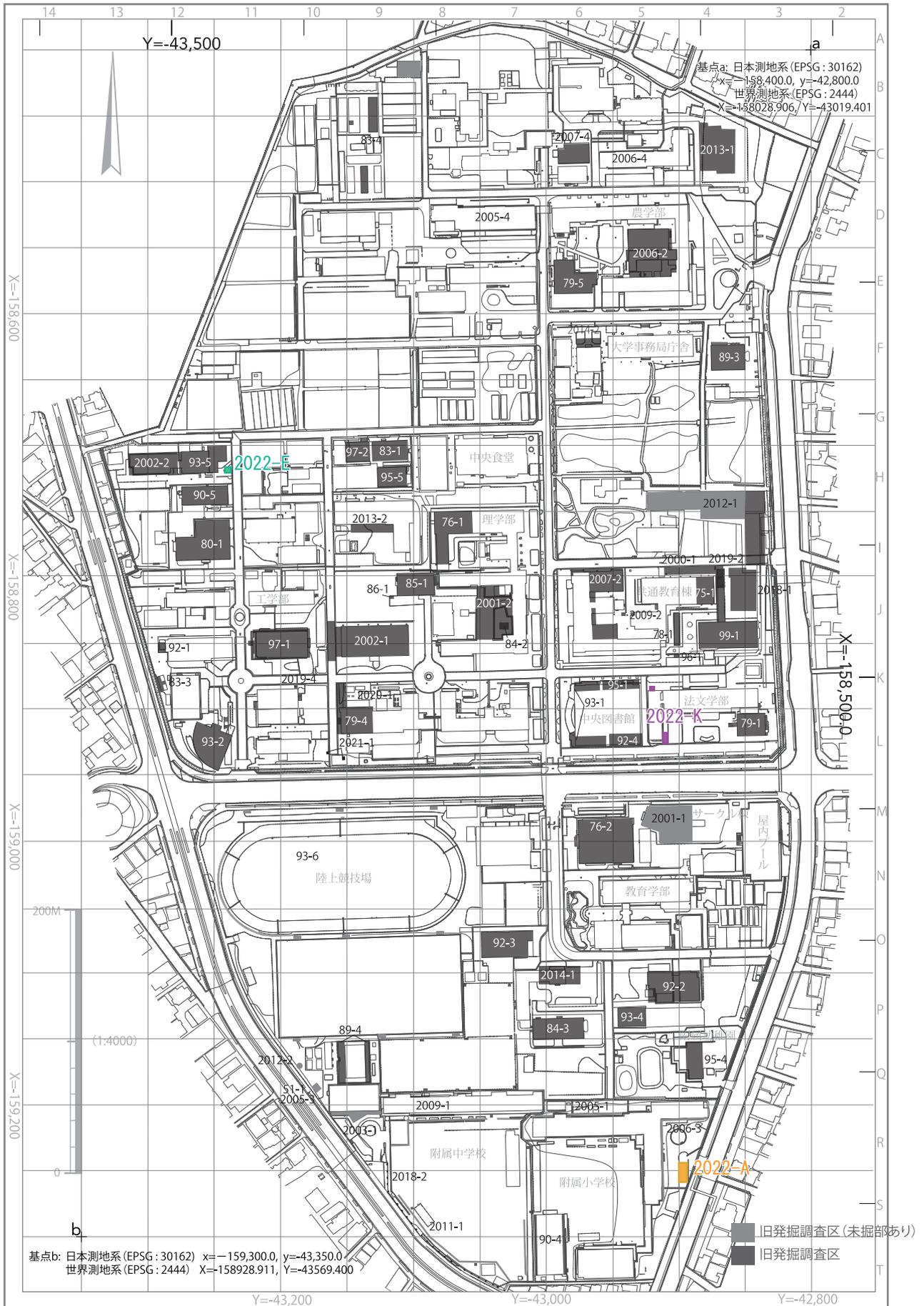


Fig.3 鹿大構内遺跡 調査地点 (郡元団地構内図)

第2章 令和4（2022）年度 立会調査

令和4年度は、立会調査3件を実施した。2022-A・E・Kの3件とも、郡元キャンパス内での立会調査である。なお、学内施設整備事業に伴う掘削工事のうち、慎重工事となったのは10件である。

2022-A 附属小学校野外屋根付き活動スペース設置工事

調査担当 鹿児島市教育委員会 長野陽介

鹿児島大学埋蔵文化財調査センター 中村直子

調査期間 5月16日

郡元キャンパス南東部、附属小学校正門に隣接する駐車場に、カーポートを設置する工事を行うことになった。カーポート支柱は4箇所、掘削深度は地表下55cmで計画されたが、周辺の過去の立会調査の事例から古墳時代の包含層が確認される可能性があったため、立会調査を実施することとなった。立会現場地点は、南側に向かって地表面が高くなっており、校舎付近より10cm以上高くなっている状況であった。1～3地点にて土層確認を行った。1・2地点では地表下52cmまで、3地点は地表下62cmまで掘削を行ったが、3地点とも掘削は盛土内で留まり、埋蔵文化財への影響はなかった。

附属小学校校舎

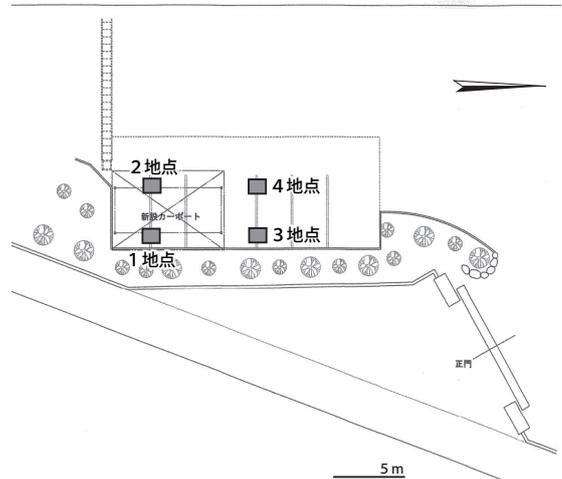


Fig.5 2022-A 掘削地点



調査風景



1地点掘削状況



3地点掘削状況



2地点掘削状況

PL. 1 2022-A 立会調査

2022-E 産学交流プラザ案内看板設置工事

調査担当 鹿児島市教育委員会 徳永愛雄

鹿児島大学埋蔵文化財調査センター 寒川朋枝

調査期間 9月20日

郡元キャンパス中央西側の産学交流プラザ入口に看板を設置することとなった。本地点南側の工学部情報工学科校舎建設の際の調査(90-5)では、浅いところでは地表下60cm付近より水田層が検出されており、本工事の掘削予定深度60cmとことから、立会調査を行うこととなった。

地表下80cmまで掘削を行った結果、攪乱層であることが判明した。攪乱層内には、水田層と思われるグライ化した土壌のブロックも混ざっており、後世の造成等により土壌が攪拌されている範囲内であると考えられる。



2022-E 掘削風景



2022-E 西側土層断面(攪乱)

PL. 2 2022-E 立会調査

2022-K 法文学部2号館改修その他工事

調査担当 鹿児島市教育委員会 有川孝行

鹿児島大学埋蔵文化財調査センター 寒川朋枝

調査期間 2月21日

郡元キャンパス法文学部2号館の改修に伴い、側溝の再敷設、新設工事を行うこととなった。既設部分については、既掘範囲におさまる工事であり、旧側溝を撤去後、再敷設を行う。付近の過去の調査事例では、地表下60～80cmは攪乱層であることが判明しているが、本工事の掘削予定深度は地表下50～100cmであったため、特に

新設となるA・B地点についての立会調査を行うこととなった。A地点については、当初の掘削予定ルートをなるべく校舎壁際に寄せるように変更してもらい、校舎壁際から1.5mの範囲内で掘削を行った。地表下1mの掘削を行った結果、攪乱層であることを確認した。校舎建設時の余堀範囲内と思われる。B地点は法文学部2号館の東側の側溝敷設掘削に伴い、南側に包含層が残存していた部分である。地表下60cm付近まで後世の攪乱を受けていたが、部分的に近代～近世(2・3層)、中世(4層)に該当すると思われる水田・畑層が残存していた。5・6層は古代～弥生時代にかけての包含層と考えられるが、遺物等の出土は確認できなかった。

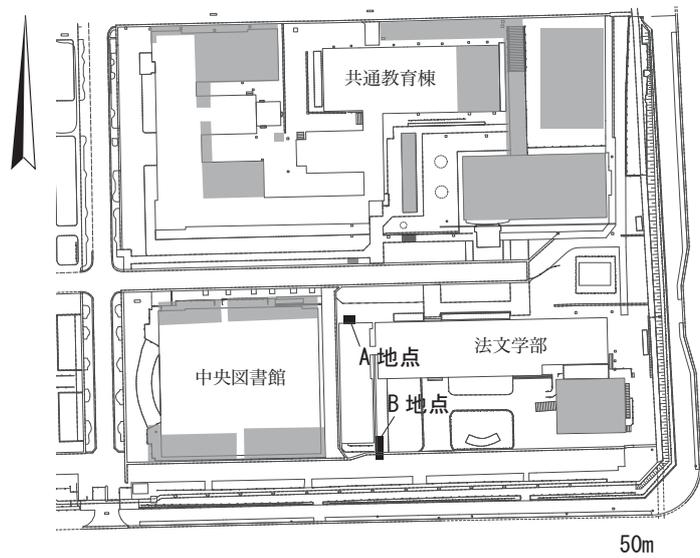


Fig.6 2022-K 掘削地点



2022-K・A地点 掘削風景



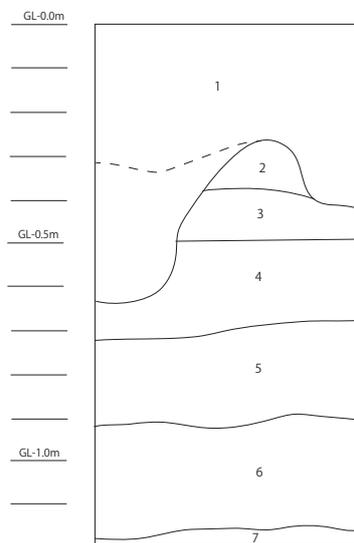
2022-K・A地点 掘削完了(攪乱)



2022-K・B地点 掘削風景

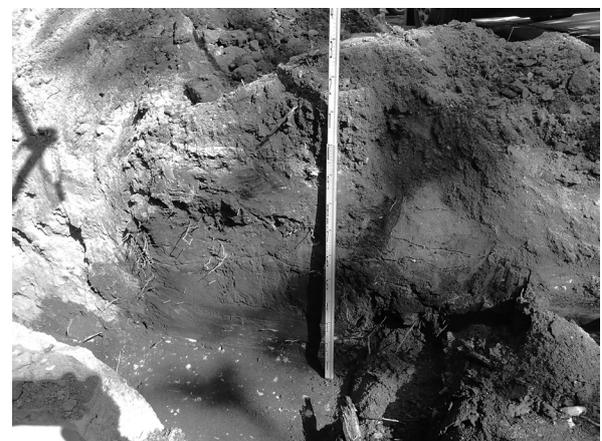


2022-K・B地点 掘削完了南から



- 1層；攪乱
- 2層；灰白色 10YR7/1 シルト層 小パミスやや混
- 3層；明褐色 7.5YR7/2 シルト層 やや砂混
- 4層；明黄褐色 10YR6/8 シルト層
- 5層；褐色 7.5YR4/4 シルト層 鉄分多、硬くしまる
- 6層；暗褐色 10YR3/3 シルト層 鉄分多、硬くしまる
- 7層；黒褐色 10YR2/3 シルト層 やや砂混
- 8層；灰黄褐色 10YR5/2 細砂層 白パミス7%混

Fig.7 2022-K B地点 東壁土層模式図



2022-K・B地点 東壁土層

PL. 3 2022-K 立会調査

第3章 その他事業

1. 土器圧痕調査

2件の発掘調査出土土器の圧痕調査を行った。96-1（郡元キャンパス防火水槽）については、縄文土器からシソ属、古墳時代土器からイネなど検出しており、『鹿児島大学埋蔵文化財調査センター報告書 第19集』（令和4年度刊行）に詳細が掲載されている。

2. フローテーション

2件の発掘調査で採取した土壌について、フローテーション作業を実施し、微細遺物を検出した。古墳時代のコメ炭化物やガラスビーズなどを検出しており、作業は継続して行う予定である。

3. 遺物整理作業

5件の発掘調査について、整理作業を行った。96-1（郡元キャンパス防火水槽）、2021-1（郡元キャンパス樹木移植工事）の調査、そして2021年の立会調査については、報告書第19集、年報37掲載のため整理作業・注記・実測・トレース・写真撮影を行い、2022年度末に刊行した。そして、99-1（郡元キャンパス文系総合研究棟）出土遺物については、注記作業を行った。

また、作業の効率化や遺物の3Dモデルのオンライン公開などを目的とし、学長裁量経費により遺物実測作業に3Dスキャナを導入した。3Dスキャナを用いた実測作業は、2013-1（郡元キャンパス産業動物実験棟建設）の出土遺物を中心に行った。

4. 刊行物の作成

発掘調査報告書として、鹿児島大学埋蔵文化財調査センター調査報告書第19集『鹿大構内遺跡（鹿児島大学郡元団地 K-5区 96-1 防火水槽改修工事に伴う発掘調査／L-10区 2021-1 樹木移植工事に伴う発掘調査）』を刊行した。また、本センターの2022年度の事業報告として、『鹿児島大学埋蔵文化財調査センター 37』を刊行した。

5. 遺物保管作業

遺物保管作業としては、学内14ヶ所に分散して収蔵・展示されている遺物収蔵状況の確認作業を行った。また、大型水槽ケースで保管している木製品の水入れ替え作業（工学部・共同獣医の2ヶ所）、金属製品の防湿等メンテナンスを行った。

6. 資料活用・公開・地域貢献活動

外部機関への調査支援依頼が2件、収蔵遺物借用依頼が2件、普及啓発・教育支援活動が3件あった。

調査支援としては、さつま町教育委員会から、さつま町上原遺跡（古墳時代の埋葬遺跡）の地中レーダー探査の調査依頼を受け、法文学部考古学ゼミ生も参加して、遺跡周辺の畑を中心に遺構の分布範囲を明らかにするために探査を実施した。また、南九州市教育委員会・大福コンサルタント株式会社より依頼を受け、知覧特攻平和会館収蔵の戦闘機「疾風」の測量に際し、当センター所蔵の3Dスキャナを用いて、コックピット内の3D測量支援を行った。

資料借用依頼は、国立歴史民俗博物館常設展示へ釘田第8地点（理学部2号館）出土土器7点の借用依頼があった。また、学内では総合研究博物館展示室と農学部展示室への展示を引き続き行っている。図書館での展示は終了となった。

教育支援活動としては、当センターに新たに導入した3Dスキャナーを用いた遺物計測方法について、法文学部考古学研究室の実習を行った。また、学内遺跡から出土した遺物の3Dモデルのオンライン公開、埋蔵文化財調査センターのHP更新などは随時行っている。



木製品水替え作業（理系総合研究棟地下）



遺物収納状況確認作業（文系総合研究棟地下）



図書館展示物撤去作業



遺物復元作業（鹿児島県埋蔵文化財センターにて）



考古学実習の様子（3D スキャナーによる遺物計測作業）



3D スキャナーによる遺物計測の様子



戦闘機コックピット内の3D 測量（知覧特攻平和会館にて）



レーダー探査の様子（さつま町上原遺跡にて）

鹿児島大学埋蔵文化財調査センター年報 38

令和6（2024）年3月発行

編集・発行 鹿児島大学埋蔵文化財調査センター
鹿児島市郡元一丁目 21-24
TEL 099-285-7270

Kagoshima University

Research Center for Archaeology

Report Vol. 38

CONTENTS

Capter

1	Report of archaeological research in fiscal year 2022	4
2	Report of rescue surveys	9
3	Report of other businesses	12

Published by

Kagoshima University Research Center for Archaeology

2024